

2021 年度
大学コンソーシアム京都
インターンシップ・プログラム「長期プロジェクトコース」
プロジェクト報告書

2021 年 11 月 5 日（金）
株式会社インサイトハウス
インターンシップ生
上西葵 田中和 村山恵望

【Ⅰ】初めに

- ①プロジェクトテーマ、目標
- ②実習生の目標

【Ⅱ】活動内容

- ①インタビュー
- ②SNS

【Ⅲ】成果物

- ①フリーペーパー
- ②絵本
- ③配布・取材

【Ⅴ】最後に

【Ⅰ】初めに

私たちは、株式会社インサイトハウスで「きょうのやましなさん」というプロジェクト活動を行った。6月末から5カ月弱、およそ90時間に渡り活動した。まず、プロジェクトテーマから説明する。

①プロジェクトテーマ・目標

「ヒトのあたたかさで、マチを活性化」これがプロジェクトテーマである。自分たちと同じ地域に住む人たちが普段どのようなことを思い、喜びを感じているのか、何を必要としているのか、それらを共有することで自分たちが住んでいるマチに愛着が湧くのでは無いか。繋がりが作れるのではないか。インタビューを通してひとりひとりに焦点を当て、SNS等を利用してヒト・マチへの情報提供を目指している。

そしてもう一つこの活動を通しての目標がある。それは、「山科のイメージアップ」だ。山科は京都市内でありながらも、治安が悪いといったイメージをいまだ持たれている方がいる。だが実際は、地域のコミュニティが盛んであり、フレンドリーであたたかいヒトが多く素敵なマチである。そのためやましなさんの活動で、地域住民ひとりひとりに焦点を当てインタビューをし、外部へも情報発信をすることでイメージアップをはかっている。

②実習生の目標

私たちが設定した目標は大きく分けると3つある。1つ目は「自分たちも楽しく活動することで、山科に楽しい気持ちを広げる」ことだ。まず自分たちが楽しまなければ、周りの人たちに楽しい思いを届けることはできないと考えたからだ。

また、私たちは山科を訪れるのが今回初めてである。山科のことをほとんど知らないのだ。そのため「私たち自身が山科のことを知る」ことを2つ目の目標とし、そのうえで「山科の魅力を発信」することを目指した。

そして、山科の魅力を探るうえで地域の人々との交流は必要不可欠であると考えた。そのため、3つ目の目標「第二のふるさとと呼べるくらいまで、山科の方たちとコミュニケーションをとる」ことにした。またこれの具体的な数値の目標として、「プロジェクトが終わるまでに顔見知り10人以上作る」ことを設定した。

【Ⅱ】活動内容

今回私たちは、「山科の子ども・子育て」に関する情報収集と情報発信を軸において活動を行った。山科には子ども食堂が多く、子育てに関する活動や支援が活発に行われている印象を、下調べを通して受けたため深く知りたいと考えたからだ。

①インタビュー

きょうのやましなさんがメインとする活動内容がインタビューである。インタビューをする前に、やり方やコツをレクチャーしてもらった。相手の話すスピードに合わせること。気持ちよく話してもらうためにすべきことなどを学んだ。そして、インタビューをする際の役割も決めた。インタビュアー、写真撮影、書記である。インタビュアーの人が書記や写

真撮影を行うと話に集中できなくなり、また、相手からもあまり好印象に思われなからだ。私たちはその三役を毎回ローテーションで行うことにした。

また、インタビューは事前にアポイントを取ってするもの、山科周辺を歩いて出会った人にインタビューをするものの二種類実施した。

初めてのインタビューは、やまざきそろばん教室でのインタビューであった。インタビュアーが村山、メモが上西、写真撮影が田中である。初めてということもあり、とても緊張していた。質問内容は事前に考えていたが、話を進めるのが難しく脱線してしまったり、インタビュアーが話過ぎてしまうということが起こった。また終始頭がいっぱいいっぱいであった。次の質問のことを考えたり、話を聞き取ることに必死で、余裕を持ってインタビューを楽しむということが出来なかった。また、写真撮影もどのタイミングで撮ったらいいのか様子をうかがってタイミングを逃したり、メモは書き留めるのに必死になってしまった。以上のように初回のインタビューは全く上手くいかず課題が多く残り悔しい気持ちが残った。

この経験を踏まえ、解決策として次の物を考えた。まず、事前の下調べを綿密に行うこと。会話の流れを想定して、質問内容などを考えておくこと。インタビューの前に自分たちの活動内容や趣旨、聞きたいことを伝えること。次の質問内容を考えず、今の会話を楽しむことである。インタビューを終えてから俯瞰的に見て、自分たちがリラックスしていなかったら相手もこわばらせてしまうと感じた。相手の話をうまく聞き出すには、リラックス、自然体、距離感が大切であると考えたため、特に心がけることにした。以上のようなことを踏まえて実施すると、二回目以降のインタビューでは回数を重ねるごとに良くなっていった。

最終的に、アポイントを取ってインタビューをしたものは以下の通りである。やまざきそろばん教室、パティスリーアラマ、鳥山由紀さん、関義哉さん、京都市山科区青少年活動センター、サンフラワー、にじいろキッチンの七つである。街頭インタビューでは、約15名以上の方にインタビューを行った。場所は公園や、イベント会場、駅周辺である。手作りの看板を持って、声をかけインタビューをした。

質問内容として全員に聞いたことがある。「山科の魅力」「困っていること」「今後挑戦したいこと」「山科の子どもの印象」「子どもへのメッセージ」である。多くの人が「山科は良いところ。自然も多いし人もあたたかい。」と嬉しそうに伝えてくれたのが印象的であった。

②SNS

山科の魅力を多くの人に伝えるため、「きょうのやましなさん」のInstagramとFacebookの投稿を7月19日から始めた。Instagramにはインタビューした内容をまとめて投稿していた。FacebookはInstagramの投稿と同じものを同時に投稿していた。

SNSの良かった点はインタビューを行える時には投稿を定期的にしていただけである。文章や絵文字にこだわり、フリーペーパーにもそのまま載せられるくらいにしっかりした文章を考えていた。また、以前の投稿とは違い写真に枠線を付けて統一感があるようなデザインにするよう心掛けた。

投稿しながら徐々に改善した点もある。投稿者が分かりづらいとの指摘を受け、私たち3人が活動している様子を投稿するようになり、投稿内容はインタビューの要約だけではなく、インタビューをして感じたことなど私たちの感想を付け加えるようにした。

反省点は投稿内容がしっかり作りすぎており、SNS の特徴である身近さ、親しみやすさが失われていた点である。山科の日常の風景等を見せることが SNS の目的であったが、今回の私たちの投稿ではインタビューに伺ったお店の宣伝活動をするようなものであった。街の風景の写真や親しみを感じることができるような気楽な文で投稿することができていなかった。さらに、Facebook に関しては使い方が分からず、Instagram と同じ投稿内容になってしまった。Facebook をみて、子ども食堂やフードパントリーという山科青少年活動センターのイベントに来て下さる方が多かったため、もう少し力を入れて投稿すべきであったと考えた。

【Ⅲ】成果物

今回私たちはフリーペーパーと絵本を作成した。フリーペーパーはインタビューをした方々の情報を伝えるもの。絵本はインタビューをした内容や皆さんからのメッセージを集め、小学生低学年向けに山科の魅力を伝えるものを作成した。

①フリーペーパー

フリーペーパーは行ったインタビュー内容を載せることにした。200部を印刷することにし、貴社で印刷させて頂けることになった。

フリーペーパーの文章面で工夫した点はインタビュー内容を要約するのではなく、インタビューをして私たちが一番何を伝えたいかを選び考えたことだ。伝えたいことが多かったが、文章が長すぎると読み手が読みにくい。そのため長くなり過ぎないように考えるのが難しかった。記事のひとつひとつに題名のようなキャッチフレーズを書くことで読んでみたいと思うきっかけになればと思考えた。また、SNS の投稿内容と同じにならないように考えた。

②絵本

小学生低学年を対象とした絵本を作成した。山科のまちに迷い込んだ猫が山科の温かい人達に触れ合っているながら冒険する「ねこちゃんとやましな」という話で、山科の人の温かさに焦点を当てた内容にした。これは、インタビューを通して私達が感じた、山科の地域の方々の方々の人の良さ、温かさを子ども達にも伝えていきたいと感じからである。

絵本制作にあたり、工夫した点は3点ある。1点目は、小学生低学年向けの絵本である為、絵本の本文も簡潔に分かりやすくことを意識しつつ、インタビュー先の方々の想いを伝えるように内容構成を意識して作成したことである。2点目は、人の温かさを表現する為に、イラストをデジタル風にするのではなく、線画も色塗りも手描き風にした点である。

3点目は、実際にインタビューをした店や実在している風景を出来るだけ正確に描くことで、見知った風景に親しみが生まれたり、絵本を読んだ人が読了後、自らの足で出向いたみたいと思つて貰えるような絵を描くことである。

8月下旬から作成を始め、10月中旬に完成した。何度も試行錯誤をしたため、時間がかかったが、完成したのを見るととても嬉しかった。

③配布・取材

絵本が10月28日に届き、フリーペーパーが10月25日に完成した。そこで、完成したものをインタビューにご協力いただいた方々に直接渡しに行った。全員渡しに行くことは出来なかったが、手に取ってくださった方々はとても喜んでくれた。また、JR山科駅、山科図書館にも、絵本とフリーペーパーを置いてくれないか頼みに行った。快く了承していただき、JR山科駅は改札前、山科図書館は寄贈といった形で置いてくださることになった。他にもコーディネーターの先生のおかげで、やましな+といったアプリにも掲載して頂いた。また京都新聞にも取材を頼み、11月6日に取材をして頂いた。掲載日は未定であるが、完成が楽しみである。

【IV】最後に

今回のプロジェクトを通して、山科の魅力を知ることが出来ただけでなく、目標としていた成果物も完成することが出来た。だが良かった点ばかりではなく、改善すべき課題も残った。活動当初に思い描いていたことを全て実施し達成するにはかなりの労力がある。計画を立てて行動することの大切さを学んだ。

私たちが最後まで諦めずに楽しく活動をすることが出来たのは、支えてくださった方々のお陰である。受入先の株式会社インサイトハウスの皆様、コーディネーターの先生、大学コンソーシアム京都の皆様に心より御礼申し上げます。

以上を持って報告書とする。